



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜国立大学常盤台インターナショナルレジデンス 新築工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台349の一部、350-1の一部、350-2の一部、352の一部	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域、準防火地域、市街化区域	平均居住人員	325 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	学校集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年2月 予定	評価の実施日	2017年9月8日
敷地面積	7,875 m ²	作成者	広建設計 高屋篤人
建築面積	2,435 m ²	確認日	2017年9月8日
延床面積	8,185 m ²	確認者	広建設計 大津正博

外観パース等

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 2.9
Q2 サービス性能: 2.6
Q3 室外環境(敷地内): 3.0
LR1 エネルギー: 4.1
LR2 資源・マテリアル: 2.6
LR3 敷地外環境: 3.5

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 本建物は、大学の学生寮である。1階共用部には交流スペース等のゆとりあるスペースを設け、学生が快適に過ごせる計画となっている。		
Q1 室内環境 ・開口部の遮音等級はT-2等級とし、室内の音環境に配慮する。 ・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、空気質環境の良化に配慮する。	Q2 サービス性能 ・劣化等級3を満足し、躯体の長寿命化に配慮する。 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。	Q3 室外環境(敷地内) ・既存緑地を保存すると共に、新たに緑地を豊富に設け、敷地内の自然環境の保全に配慮する。
LR1 エネルギー ・適切な断熱を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮する。	LR2 資源・マテリアル ・屋外散水栓の雨水を再利用し、上水使用料削減に配慮する。 ・ノンフロン断熱材を採用し、汚染物質含有材料の使用回避に配慮する。	LR3 敷地外環境 ・自主的に雨水貯留槽を計画し、雨水排出流出抑制に配慮する。 ・屋外照明を適切に計画し、近隣に光害を与えないよう配慮する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



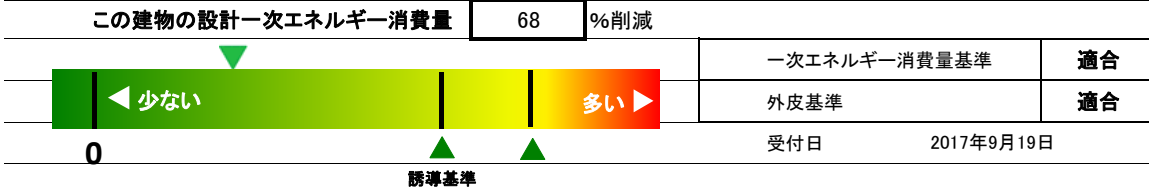
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)横浜国立大学常盤台インターナショナルレジデンス 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

- ①断熱材を厚くする等の対策を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。
- ③節湯器具等を採用し、設備システムの高効率化に配慮している。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

- ⑪全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、空気質環境の良化に配慮している。
- ⑩開閉可能な窓を十分に確保し、自然換気による空気質改善に配慮している。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

- ⑭敷地全体に中高木を豊富に植栽した緑地を設け、敷地内温熱環境向上に配慮している。

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

- ⑯劣化等級3を満足させ、建物の耐久性に配慮している。
- ⑰耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化へ配慮している。
- ⑰重要な設備機器については耐震クラスを高めに設定し、信頼性向上へ配慮している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

雨水等利用設備

エネルギーマネジメントシステム導入



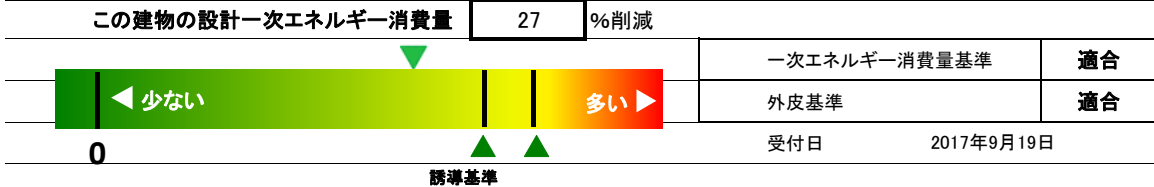
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <集合住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)横浜国立大学常盤台インターナショナルレジデンス 新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①断熱材を厚くする等の対策を行い、建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。

③節湯器具等を採用し、設備システムの高効率化に配慮している。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【健康・安心】 **4**

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当)

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、シックハウス症候群などの健康被害に配慮している。

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防 災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯劣化等級3を満足させ、建物の耐久性に配慮している。

⑰耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化へ配慮している。

⑰重要な設備機器については耐震クラスを高めに設定し、信頼性向上へ配慮している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **3**

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)
_____	_____
_____	雨水等利用設備 ・
エネルギーマネジメントシステム導入	_____
_____	_____